

小児科医師 中原利郎先生の

過労死認定を支援する会ニュース

三家族の連携で新たな一歩

「支援する会」は五月四日、東京・亀有駅前・かめありリリオホールで、「シンポジウム小児医療を考える だいたいしようぶ?! こどものお医者さん」と題したシンポジウムを開きました。小児医療事故の被害者家族やその支援グループとの共催、四百人という参加者、大きな反響、いろいろな意味で、これまでにない大きな一歩となりました。



共通の思い
もつと広く

この企画は、中原利郎医師の妻、のり子さんと、東京・葛飾区の東部地域病院で誤診や引継ミスからお子さんを亡くされた豊田郁子さん、岩手県一関市で病院らしい回しの末にお子さんを亡くされた佐藤美佳さん、立場も地域も異なる三家族が、小児医療を良くしたい、という共通の思いを、共に手を携えることでより広く訴えたい、という願いからスタート。

豊田さんと、彼女が現在勤務する新葛飾病院の清水陽一院長、中原のり子さんと「支援する会」の役員が中心となり、遠方の佐藤さんとも随時連絡を取りながら、一月から何度かの打ち合わせを開いて準備を進めた。

四月二六日には、三家族の連名による「小児医療改善を求める要請書」を厚労省に提出し、記者クラブで記者会見も行った。

シンポジウム前日の五月三日には、亀有駅前で、風船と会の案内の配布を行い、中原のり子さん、智子さんの他「支援する会」から五人が参加した。



四百人に
届いた肉声

当日は連休のど真ん中で、行楽に絶好の晴天。広い会場がどれだけ埋まるか、関係者一同直前まで心配していたが、開場前から続々と来場者が詰めかけ、受付には長い行列ができた。

シンポジウムは、大熊由紀子さん（元朝日新聞論説委員、国際医療福祉大学大学院教授）、和田ちひろさん（「いいなステーション」代表、東大先端研特認助手）、二人のコーディネートによって進められた。

冒頭、大熊さんは、直前に起きた福知山線の脱線事故を例に引

き、被害者は「殺された」と思っている。運転士は、殺すつもりはなかっただろうが、システムの問題の中で、殺すことに加担させられていたかもしれない。医療事故についてもこれと同様に、大きなシステムの問題を掘り下げていく機会にしたい、とシンポジウム全体を方向づけた。

この後、三家族が順に体験を語った。中原さんは、亡夫の遺書を読んで自分は夫のメッセンジャーとして生きる決心をした、と発言。佐藤さんは、悲劇を繰り返さないために自分にできることを自問し、小児医療の現実を知る努力を続けること、患者も自分の負担をすることの二つしかないと思ふようになった、と話した。豊田さんは、病院のセーフティマネジャーとして患者と医療者を共に守る仕事を続けることが、亡き子と共に生き続けること、と話した。悲痛な体験から生まれる切実な言葉に、会場の参加者は静まりかえって聴き入った。

後半は、日本小児科学会の理事でもある中澤誠・東京女子医大教授（小児循環器）が、学会としての取り組みを紹介しながら、小児救急の改善は医療者だけではできない、市民と手を携えていきたい、と訴えた。読売新聞記者の鈴木敦秋さんは、日本の小児救急が崩壊寸前まで追い詰められている現状を事例を挙げながら説明し、痛みと想像力の共有から出発しようと言った。

フロアからも「支援する会」の会員も含め多くの方の発言があり、二時間の会は「まだまだ語り足りない、聴き足りない」の熱気を残しながら終了した。

当日の全発言記録、写真、参加者の感想を下記サイトに掲載しているので、ご参照いただきたい。
<http://www.bb-e-mansion.com/kuki/>



広がる反響
7月「再演」

シンポジウムの模様は、当日のテレビニュースで放映。日本医学ジャーナリスト協会からは協会例会でシンポジウムを再現したい、との要望が寄せられ、七月二六日夜、東京・千代田区の本プレスセンターで「小児科医の自死を乗り越えて―医師も子どもも被害者、その悲劇をなくすシステムを求めて―」と題したシンポジウムが開かれた。岩

小児救急

「悲しみの家族たち」の物語

五月四日のシンポジウムの一人で、三家族をひきあわせて「仕掛け人」でもある読売新聞記者・鈴木敦秋さんの著書。

朝日新聞書評欄ではノンフィクション作家・野村進氏が、地方紙の書評欄ではノンフィクション作家柳田邦男氏



が、それぞれ取り上げて高く評価するなど、新聞雑誌で広く話題を呼んでいる。中原医師の事件を詳しく知っていたたくと共々、三家族が手を携えるに至った経緯や真情をご理解いただくためにも、御一読を。

講談社
千七百円（税別）



<支援する会・案内>

「支援する会」の仲間になってください。会員には会の活動や裁判の報告、当事者や支援者の声をお伝えするこの「ニュース」を、定期的にお送りさせていただきます。

問い合わせ先：東京都中央区新川1-11-6中原ビル「小児科医師中原利郎先生の過労死認定を支援する会」事務局

電話 090-6133-0090

ホームページ：

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~nakahara/>

会報「ツタバナ」：御希望の方は下記アドレスまたは番号へ。

・nth-naka222812@ezweb.ne.jp

・nth-naka@nth.biglobe.ne.jp

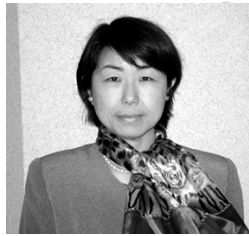
・03-3541-1582=fax

役員

- | | |
|--------|---------------------------|
| 会長 | 理夫 弘登 典美 尚子 平 H. |
| 副会長 | 主伸 幸 克道 秀 典一 |
| 事務局 長 | 守月 藤 鬼 木 司 橋 島 岡 峰 科 元 K. |
| 事務局 次長 | 藤 九 鈴 郡 高 川 岩 小 仁 崎 |
| 事務局 計 | |
| 事務局 監査 | |
| 事務局 幹事 | |

あゆみ

Noriko's のり子のメッセージ Message



前略、M様
素敵な小児科医に・・・
後押しできる医療界へ

ります。大変ご無沙汰してお
しは、初めM様にお会い
たのは、夫が亡くなった時
に経つて、自宅にお参りし
て頂いた時でした。それに
いほど、頂いた時でした。そ

の時に戴いた心温まるお手紙
は、今も大切にさせて置いて
います。ご長男は、当時中
学二年生。背がすらすらと高
く、とてもしつかりした頼も
しいお兄ちゃんでした。三
歳の時、肺炎で入院をされて
中原が主治医になったのがご
縁で、中原のような小児科医
師を目指して下さっている
と伺い、とても感動しまし
た。大学二年生に成長されま
したか？今も小児科医師に
なるために勉強を続けてい
らっしゃいますか？娘の智
子は来春、国家試験に通ると
研修医です。私は、ご子息や
娘を「さあ、素敵な小児科医
師になつて下さい！」と後
押し出来る環境になつてもら
えるように行動してきまし
た。そして、医師の世界を
もっと改善しましょう！とご
支援くださる多くの方と知り
合うことが出来ました。

がら暮らしてはいないとい
うことは、想像がつかない思
います。ただ、辛すぎてなかな
かに出来なかつた事も、勇気
を出して活字にしていただ
く事にも挑戦しました。
三年前に「あなた頑張つ
ていることは充分伝わって
いるから、あまり頑張りすぎ
ないでください」というお電
話を頂きました。たたくさん
の署名を戴いた時には、正直
とても驚きました。六年前の
失意の時には、お夕飯のおか
ずを届けてくださいました。
とても美味しいポテトサラダ
でした。そんなM様には、あ
の時から私たちにどんなドラ
マがあったかを、是非知つて
頂きたいと思つています。も
し未だでしたら、ぜひ「小児
科救急」をお手にとつていた
けたら、と思います。
今年も暑い夏の日が続いて
います。先日は、七回忌の法
要を執り行いました。こども
達が元気に希望を持って暮ら
せるように、もう少し頑張り
ます。M様もどうぞご自愛く
ださいませ。草々

平成一七年 盛夏

- ・平成11年8月16日 佼成病院小児科医師(小児科部長代理)中原利郎、佼成病院の屋上から投身自殺(44歳)
- ・13年9月17日 遺族、新宿労働基準監督署に労災保険法による遺族補償給付を申請
- ・14年12月26日 遺族、佼成病院を相手どり東京地裁に損害賠償請求訴訟を提起
- ・15年3月25日 新宿労基署、中原医師の自殺は業務上の事由によるものとは認められないとして労災保険法による遺族補償の給付をしない旨決定
- ・15年5月12日 遺族、新宿労基署の不支給処分取り消しを求め、東京労働局労災審査官に審査請求
- ・15年8月16日 「小児科医師中原利郎先生の過労死認定を支援する会」発足
- ・15年11月15日 「小児科医の過労を考える集会」開催
- ・16年1月8日 東京労働局に労災認定を求める11,703名分の署名を提出
- ・16年3月30日 東京労災審査官、審査請求の棄却を決定。
- ・16年5月20日 遺族、労働保険審査会に再審査を請求
- ・16年11月13日 第2回「小児科医の過労を考える集会」開催
- ・16年12月7日 遺族、国を相手取り東京地裁に行政訴訟(労災不認定取消訴訟)を提起。
- ・17年5月4日 「小児医療を考えるシンポジウム だいじょうぶ? こどものお医者さん」開催(共催)

論! by 海老原あや子

過労自死と呼び替えを

言葉には言葉があります。幸
せ、愛、明るさ、楽しさとい
つた人を明るくさせる言葉には愛
かし、悲しみ、辛さ、絶望、孤
独といった言葉から連想されるも
のには人間の感情を暗くさせる
言葉があります。殺す、と言
言葉はその最たるものだといえ
ます。その文字を見ただけで、何
か恐ろしいものを感じてしま
うような言葉です。では「自殺」
という言葉から皆さんは何を想
像するでしょうか。自らを殺す、
と書くこの言葉の持つ言葉は人
その状況を自殺と言ふ言葉で表
現するのではなく、自死という
言葉で表現することでせめて亡
なられた方そしてその遺族の方
に寄り添う、そんなちよつとした思
いやりが私達に求められているの
ではないでしょうか。私たちが過
労死遺族の心のケアを考える会
は、過労自殺を過労自死と呼び
変えようと呼び、過労死とい
う言葉を命名した医師・上畑鉄
之丞先生は「この呼びかけに賛同
され、発表される文書ですべて「過
労自死」と置き換えていってしま
います。

心を暗く閉ざしてしまいます。
家族を自殺で亡くした自死遺
族の方たちは、家族を亡くした
日から、自殺と言ふ言葉によつ
て何回となく傷つけられていま
す。時には自分で発しなければ
ならない場合もあります。他
人によつて自殺と言ふ言葉を投
げかけられた気持ちは恐らくそ
の遺族の立場にならなければわ
からないでしょう。「こつた言
葉による二次災害を自死遺族は
受けているのです。
過労自死をされた方は、自ら
を殺したのではなく、劣悪な労
働環境によるストレスから自分
を失い、自ら死を選択せざるを
得ない状況で亡くなりました。

お詫びとお知らせ

◎会費の額 前号で会員継続と新
年度会費納入をお願いしたところ、
会費の額が分からなかつたとい
う質問を何人かの方からいただき
ました。会則により会費は「年間一
口千円、何口でも可」と定めてお
ります。一口の方も十口以上お支
払い下さっている方もいらつし
やいます。支援の会では、額の多
寡に関わらず、御支援に心から感
謝して有効に使わせていただいで
います。

◎メールマガジンの申し込み 会費の振り
込み用紙にメールアドレスへの参
加希望と記入いただいた方に、事
務局からメールを送り、アドレ
スと御意志の再確認をしています。
かし、このメールにお返事をいた
だけず、未登録になつてしまつ
た方がいらっしゃいます。参加を
希望なさつていらっしゃる方に
いらつしやいます。下記アドレ
スまでその旨のメールをお送り
ください。お手数ですが宜しくお
願いいたします。
kuki@medical.engii.ne.jp

短報 1月

- ▽6月9日 労働保険審査会公開審査。支援する会から5人が傍聴
- ▽【行政訴訟@東京地裁】
- ▽1月19日 第一回公判
- ▽3月17日 第二回公判
- ▽5月11日 第三回公判
- ▽8月3日 第四回公判
- ▽【民事訴訟@東京地裁】
- ▽2月4日 第十四回公判
- ▽3月18日 第十五回公判
- ▽4月28日 第十六回公判
- ▽6月20日 第十七回公判
- ▽【支援運動】
- ▽1月15日 会報第4号発送の後「支援する会」新年会@銀座
- ▽1月28日 支援する会役員会@銀座。活動方針、役員交代等討議。
- ▽2月5日 5月4日の集會につき第一回準備会@亀有
- ▽2月25日 支援する会役員会@銀座
- ▽3月7日 5月4日の集會につき第二回準備会@中原宅
- ▽4月26日 3家族と支援グループ連名で小児救急問題に関する、記者クラブにて共同提出。記者クラブにて会見。
- ▽5月3日 ビラと風船配布@亀有駅前。その後第三回準備会@新葛飾病院
- ▽5月4日 「小児医療を考えるシンポジウム」@亀有リオホール
- ▽7月26日 日本医学ジャーナリスト協会例会でシンポジウム「小児科医の自死を乗り越えて」
- ▽【報道】
- ▽4月14日 講談社から「小児救急」出版
- ▽5月3日 NHK教育テレビ福祉ネットワーク「企業のうつ病」で中原医師を取り上げ(匿名)
- ▽【予定】
- ▽9月15日 民事訴訟第十八回公判
- ▽10月12日 行政第五回公判